1. 保育学科3つのポリシー

入学に関する基本的な方針（アドミッションポリシー）

保育学科では、建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）とHospitality（思いやり）の体得に努め、将来の保育者として、探究心を持って子どもの心身の成長を支援し、地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持つ学生を募集します。

入学前に身につける能力・素養

1.　保育学科の教養教育科目、専門教育科目の基礎となる水準の知識・技能
高等学校卒業程度までの基礎的な学力を有し、保育・幼児教育を学ぶにあたって知識や技能を適切に展開できる。

2.　保育学科での学修に必要となる論理的思考力・判断力・表現力
これまでに学んできた知識や技能等を活用し、課題に取り組むことができる思考力・判断力を持ち、自分の考えや思いを他者に伝えるための表現力を備えている。

3.　保育学科での学修を身につけるための主体性・協働性
保育・幼児教育への学習意欲を強く持ち、学んだ知識・技能を用いて積極的に人々と関わり、地域・社会に貢献しようとする意志がある。

入学者の方針

1.　入学者選抜では、保育学科で学びたいという高い勉学意欲と知的好奇心のある者を、あらゆる地域から迎え入れる。

2.　入学後の学修の基礎となる知識・技能、論理的思考力・判断力・表現力、および主体性・協働性（学力の三要素）を入学者選抜において確認する。

評価方法の比重

1.「福島学院大学短期大学部入学者選抜規程」に基づき、保育学科入学者選抜方針を定め、入学者選抜を実施する。

2.　入学者選抜においては、「入学前に身につける能力・素養」の「1～3」を、書類審査・面接・小論文により総合的に評価する。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

保育学科は、保育・幼児教育分野の専門性において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、体系的教育編成を構築しています。

なお、「教員免許課程」および「指定保育士養成」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるよう教育課程を編成しています。

卒業認定・学位授与に求められる体系的教育編成

すべての学生が根拠に基づく（エビデンスベース）思考力と総合力を身につけるために、充実した教養教育科目を編成。

- 演習、実践、学生参画型対話型教育（アクティブラーニング）などの双方向型授業を主体とし、問題発見・解決力、構想・構築力、コミュニケーション力、実践力を培う専門教育科目を編成。
- 教養教育科目と専門教育科目における学生の主体的学びを構築するために、学問分野・レベル・授業形態などをカリキュラムツリー・ナンバリングなどによって体系化。
- 学生の自学自修による体系的な学びを、学修ポートフォリオ・履修カルテなどによって可視化（みえる化）。

2つに大別される科目およびプログラム

カリキュラムは、教養教育科目、専門教育科目に大別され、そこに関連する分野の科目によって、卒業認定・学位授与のための体系的学習が可能です。

1. 教養教育科目 →DP1 の総合力に関連する科目

- 広い視野に立ち、短期大学士力の基礎となる基本的な教養（アカデミック・ツール）を提供する
- 1 年次の初年次教育によって、リテラシー（読む・書く・話す）および情報リテラシーを修得する

2. 専門教育科目

→ DP2～5 の問題発見・解決力、構想・構築力・コミュニケーション力、実践力に関連する科目、資格取得科目を含む

- 2 年次までの専門教育科目によって、保育・幼児教育に関する研究能力、専門的職業能力を育成するとともに、資格取得のために高い知識・技能の修得を提供する
- 保育・教育実習などの学外実習やボランティア活動を通して、地域と社会で実践的に学び、また貢献する機会を提供する
- 本学附属施設の認定こども園、子育て支援センターや地域の福祉施設、保育・教育関連機関と連携をし、実践型学習の機会を提供する

成績評価の可視化（みえる化）

教育課程や科目レベルでの「学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえて行う。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

保育学科の教育研究上の目的に基づき、保育学科教育課程における学修を通して以下に示す能力・技能等を身につけ、短期大学部学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「短期大学士（保育学）」の学位を授与します。

DP1. 総合力

保育・幼児教育を学ぶ者として、人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力

DP2. 問題発見・解決力

子どもの成長とそれを取り巻く現代社会に関心を持ち、保育・幼児教育や乳幼児の発達に関する課題を見いだし、解決に取り組むことができる関心・意欲・態度

DP3. 構想・構築力

近年の子どもと子どもに関する社会等の新たな問題とその背景を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案を行い、論理的に説明する力

DP4. コミュニケーション力

学びによる能力や素養を活かすために、子ども、保育者、保護者、地域の方々といった子どもの成長に関わる他者との相互理解を実現する力

DP5. 実践力

保育・幼児教育に関する専門性を実践するために必要な知識・能力・技能

2. 保育学科の教育目標と学習の成果

保育学科においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としています。

学生には幼稚園教諭二種免許状と保育士資格両方の取得を奨励し、将来の保育者として、生涯にわたって学び続けながら地域・社会に積極的かつ実践的に貢献できる人材を輩出します。

免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていませんが、学習成果はこれに沿って以下のように設定しています。

1. 幼稚園、保育所、認定こども園にかかわらず、地域社会、家庭、社会的養護など様々な教育・保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につけている
2. 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を的確に把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得している

3. 保育学科学生の努力目標

1. 保育者として望まれる諸資質、すなわち明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを身につけるようにしましょう。

2. 教育実習・保育実習は保育者になるための大切な実践の場です。実習とその事前・事後指導を通して子どもの発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を身につけましょう。

3. 教育・保育に関するイベント、研修会などのボランティア活動へ積極的に参加し、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献するようにしましょう。

4. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために、次の点が求められます。よく理解して努力しましょう。

1. 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の建学の精神「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
2. 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
3. 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識や教養を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるようにしましょう。
4. コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
5. 子ども自身の事柄ばかりではなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でも、ゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
6. 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
7. 自身の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。卒業後は本学福祉学部への進学も検討しましょう。

「保育者」 保育者(ほいくしゃ)とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士・ 幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

5. 学生の表彰

保育学科では、学業成績が優秀かつ人格に優れ、他者の模範となるような学生に対して、各種表彰を行っています。 在学中、学業に努力し、授業以外の活動にも積極的に参加し、他者の模範となることは、並大抵のことではありません。そのような学生は、必ずその成果が学業成績にも、また人間的な成長にもみられます。
本人にとっては社会に出てからの励みにもなり、自信にもつながることと思います。

選考の基準は、かなり厳しいものとなっています。例えば、各種学外実習の評価も基準の大きな要素になっているからです。学内だけではなく、学外実習における評価が含まれることは意義のあることと考えます。毎年数人の学生がその対象者となり、表彰できることは学科の誇りです。

なお、学内の表彰の他に「全国保育士養成協議会会長表彰」もあります。

（1） 短期大学部学長賞の授与

短期大学部学長賞の選考基準は、次に該当する学生を対象として、教授会において審査され、学長が決定します

1. 学業成績が優良で、人格に優れている者
2. 学外実習において、特に高い成績評価を得た者
3. 学生の課外活動もしくは学内の自主的活動において特に優れた実績をあげた者
4. 学外活動もしくはボランティア活動において特に優れた実績をあげた者
5. その他学生の模範となる顕著な行為のあった者

（2） 保育学科長賞の授与

保育学科では学業成績が優秀かつ人格に優れ、他者の模範となる学生に対して、保育学科長賞を授与しています。選考基準は、人格に優れ他の模範となる者で、以下の各号の全てに該当する者を対象として行い、学科会議で審議され学長の承認のもとに保育学科長が決定します。

1. 学業成績が特に優秀な者
2. 学外実習において特に優秀な評価を得た者
3. 課外活動（学友会、学科学友会、クラブ、クラス、ボランティア活動等）において、よくその職責もしくは活動を遂行した者

（3） 千葉記念賞の授与

千葉記念賞とは、学生部長、保育科（現保育学科）長等を歴任し、本学の発展に大きな功績を残した故千葉恭造副学長（理事）を記念して制定された賞です。

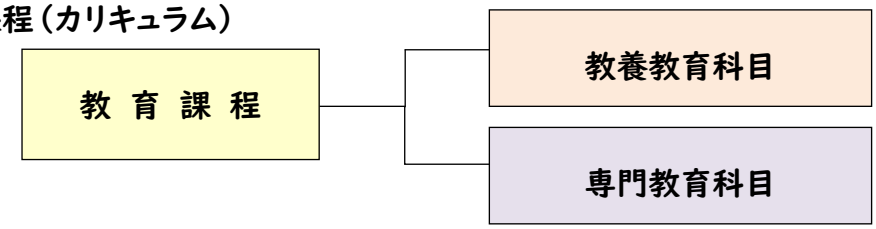
保育学科では、教育実習、保育実習等において特に優れた評価を得た学生を対象とし授与しています。

6. 保育学科の教育課程

保育学科で開設されている授業科目は、「教育課程表」（別表）の通りです。

教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別されています。

教育課程（カリキュラム）



（1） 教養教育科目の教育課程編成方針

教養教育科目は、次の6つの科目分野に分かれています。

教育方針

「初年次教育」は、本学学生として、建学の精神、教育理念、及び本学の教育について理解し、挑戦する心を育む科目です。そして、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、社会的貢献について考えることができる人材育成を目指しています。

表現力向上分野

教養ある社会人として最低限身につけておかなければならない基礎知識は数多くありますが、本学では明快適切な自己表現によって、より良い人間関係を作り上げていくことを教養教育の基本としています。特に正しい文字言語と音声言語の修得を基本とした、豊かな国語力は必要なものとして重視しています。

保育学科では、保育者としての文章、及び会話による表現力の修得を目的とした「文章表現Ⅰ」、「文章表現Ⅱ」（各2単位）と「会話演習」（2 単位）を必修科目として開設しています。

その他の選択科目として「書写演習」（2 単位）を設定しています。

情報教育分野

保育学科では、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につけていきます。

1 年次前期では「情報機器操作」（2 単位）、後期には「データサイエンス」（2 単位）を必修科目として開設しています。

現代教養分野

現代社会において、大学生の一般的なマナーの悪さがよく取り沙汰されています。大学在学中、学外実習や就職活動の際も実習先や求人先から、マナーの欠如が指摘されます。そこで「生活教養Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）の科目を設け、人間関係を円滑に図るためのマナー教育(冠婚葬祭の基礎知識を含む)を必修科目として位置づけています。

また、教養を兼ね備えた保育者になるためには、一般的な幅広い教養（音楽、美術、文学など）に親しみ、学びを深めることも重要です。「音楽演習」、「美術演習」、「文学演習」は選択科目ですが、保育者を目指す学生にとって興味を持って受講ができるように、専門教育にも繋がるような授業内容としています。

その他の選択科目としては、時代にあったテーマを設定して学ぶ「教養演習Ⅰ」、「教養演習Ⅱ」。「日本国憲法」（幼稚園教諭免許状必修科目）では、日本国憲法の基本理念・基本構造や教育を受ける権利、児童の権利擁護なども学ぶ内容としています。

国際理解分野

国際理解分野は、国際理解教育と語学教育で構成しています。

＜国際理解教育＞

本学の「教育の理念」にも掲げている『国際的な視野に立ち、相手のことを理解し、相互理解の心を持つひとを育てます』を具現化する科目です。

「国際理解演習」では、本学で企画する海外研修旅行に参加するなど、各自の研究テーマに沿った事前学習や現地での体験、研修後のレポート作成を通して、諸外国の社会や異文化への理解を深める内容としています。

＜語学教育＞

国際事情や諸外国の文化を理解し、国際的な視野を形成する上で、その基礎となる英会話を修得する科目です。国際化の時代、教育・保育施設においても、外国人の子どもたちが幼稚園、保育所などに在籍し、その保護者と関わることが多くなってきています。 そこで、「英会話」は、日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身につけるため、英語の発音、リスニングに重点を置きます。基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基本的なコミュニケーションができることを目的としています。

なお、入学時の学生の能力に応じた授業が展開できるよう、「英会話Ⅰ」（ベーシックレベル）と「英会話Ⅱ」（アドバンスレベル）のレベル別授業を実施します。

体育分野

保育者は、活動的な子どもたちと共に行動をする仕事です。常日頃から、体力の維持と健康管理は極めて重要です。

「体育講義」では、日常生活における心身の健康の確立について、特に運動やスポーツの持つ現代的な意味や役割、可能性を探り、学生が生涯にわたり健康なライフスタイルを創造するために必要な知識について学びます。

「体育実技」では、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけ、健康・体力づくりの実践力向上を目標とし、完全種目選択制を導入します。種目数は3種目（バレーボール・バドミントン・レクリエーションスポーツ）に厳選して開講します。

（2） 専門教育科目の教育課程編成方針

幼稚園教諭免許状に関する科目区分は、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とした、次の5項目の区分となっています。

「領域及び保育内容の指導法に関する科目」
「教育の基礎的理解に関する科目」
「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」
「教育実践に関する科目」
「大学が独自に設定する科目」

保育士資格に関する科目区分は次の5系列で構成されています。

「保育の本質・目的に関する科目」
「保育の対象の理解に関する科目」
「保育の内容・方法に関する科目」
「総合演習」
「保育実習」

保育学科では、理論と実践の両面から、多彩な科目を系統的に学び、幼稚園教諭や保育士などに必要な知識や技能、多面的素養を培っていきます。

1）　幼稚園教諭免許状取得にかかわる教育課程（指定科目）について

⑴「領域及び保育内容の指導法に関する科目」(幼二種：12単位)

イ 領域に関する専門的事項（6単位）
「幼児と健康」　（演習：1単位）
「幼児と人間関係」　（演習：1単位）
「幼児と環境」　（演習：1単位）
「幼児と言葉」　（演習：1単位）
「幼児と表現（造形）」（演習：1単位）
「幼児と表現（音楽）」（演習：1単位）

ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）（6単位）
「保育内容総論」　（演習：1単位）
「保育内容指導法 健康」　（演習：1単位）
「保育内容指導法 人間関係」（演習：1単位）
「保育内容指導法 環境」　（演習：1単位）
「保育内容指導法 言葉」　（演習：1単位）
「保育内容指導法 表現」　（演習：1単位）

⑵「教育の基礎的理解に関する科目」(幼二種：15単位)

イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想（4単位）
「教育原理」（講義：2単位）　「保育原理」（講義：2単位）

ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）（2単位）
「保育者論」（講義：2単位）

ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）（2単位）
「教育行政」（講義：2単位）

ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（3単位）
「教育心理学」（演習：1単位）　「発達心理学」（講義：2単位）

ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（2単位）
「特別支援教育」（講義：2単位）

ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）（2単位）
「保育・教育課程論」（講義：2単位）

⑶「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」(幼二種：6単位)

イ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）（2単位）
「教育方法及び技術」（演習：2単位）

ロ 幼児理解の理論及び方法（2単位）
「幼児理解の理論及び方法」（演習：2単位）

ハ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法（2単位）
「教育相談の理論及び方法」（演習：2単位）

⑷「教育実践に関する科目」(幼二種：7単位)

イ 教育実習(5単位)　「教育実習」(実習：5単位) ※事前・事後指導1単位を含む
ロ 教職実践演習(2単位)　「保育・教職実践演習(幼稚園)」(演習：2単位)

⑸「大学が独自に設定する科目」(幼二種：開設科目なし)

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な最低単位数は、⑴～⑸の科目区分の単位数を合計して31単位です。保育学科は、この区分を除く⑴～⑷の科目区分の単位数だけで、40単位分を開設しています。単位数が充足されていることから、⑸の科目区分には授業科目を設定していません。

2） 保育士資格取得にかかわる教育課程（指定科目）について

⑴「保育の本質・目的に関する科目」(保育士：14単位)

「教育原理」（講義：2単位）　「保育原理」（講義：2単位）　「保育者論」（講義：2単位）
「社会福祉」（講義：2単位）　「子ども家庭福祉」（講義：2単位）　「子ども家庭支援論」（講義：2単位）
「社会的養護Ⅰ」（講義：2単位）
＜選択科目＞「教育行政」（講義：2単位）

⑵「保育の対象の理解に関する科目」（保育士：10単位）

「発達心理学」（講義：2単位）　「子どもの保健」（講義：2単位）　「子ども家庭支援の心理学」（講義：2単位）
「幼児理解の理論及び方法」（演習：2単位）　「子どもの食と栄養」（演習：2単位）
＜選択科目＞「教育心理学」（演習：1単位）　「特別支援教育」（講義：2単位）
「臨床心理学Ⅰ」（講義：2単位）「臨床心理学Ⅱ」（講義：2単位）

⑶「保育の内容・方法に関する科目」（保育士：22単位）

「幼児と健康」（演習：1単位）　「幼児と人間関係」（演習：1単位）　「幼児と環境」（演習：1単位）
「幼児と言葉」（演習：1単位）　「幼児と表現（造形）」（演習：1単位）
「幼児と表現（音楽）」（演習：1単位）　「保育・教育課程論」（講義：2単位）
「保育内容総論」（演習：1単位）　「保育内容指導法 健康」（演習：1単位）
「保育内容指導法 環境」（演習：1単位）　「保育内容指導法 言葉」（演習：1単位）
「保育内容指導法 表現」（演習：1単位）　「保育内容指導法 人間関係」（演習：1単位）
「乳児保育Ⅰ」（講義：2単位）　「乳児保育Ⅱ」（演習：1単位）　「子どもの健康と安全」（演習：1単位）
「障害児保育」（演習：2単位）　「社会的養護Ⅱ」（演習：1単位）　「子育て支援」（演習：1単位）
＜選択科目＞　「教育方法及び技術」（演習：2単位）　「教育相談の理論及び方法」（演習：2単位）
「ピアノ演習Ⅰ」（演習：2単位）　「ギター演習」（演習：2単位）

⑷「保育の本質・目的に関する科目」(保育士：2単位)
「保育・教職実践演習（幼稚園）」(演習：2単位）

⑸「保育実習」(保育士：9単位)
「保育実習指導Ⅰ」（演習：2単位）　「保育実習Ⅰ」（実習：4単位） <選択必修科目>　「保育実習指導Ⅱ」（演習：1単位）「保育実習Ⅱ」（実習：2単位） もしくは「保育実習指導Ⅲ」（演習：1単位）「保育実習Ⅲ」（実習：2単位）

3） 保育学科独自の選択科目について

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に関わる科目の他に、保育学科の特色ある専門教育科目として、実践的な知識・技術力を修得することを目的に、次の5科目を設定しています。

「臨床心理学Ⅰ」

臨床心理学における様々な援助理論とその技法に関して基礎的な知識を学びます。また、子どもに関わる心理支援や支援者のセルフケアについて、講義やグループワークを通じて理解を深めていきます。

「臨床心理学Ⅱ」

心の問題や精神疾患などに関連する様々な問題について、臨床心理学の枠組みからそれを理解するとともに、具体的な事例を通して学んでいきます。また、臨床心理学が活用されている領域や、子どもの問題についても理解を深め、それぞれの事例を通じて学んでいきます。

「保育内容研究」

本授業では、領域「表現」のねらいを基盤に、今まで学んできた保育内容や実習経験を生かし応用的な指導方法及び、保育現場での子どもの身体表現あそびや活動等に対応できる実践力を養います。創作過程の中で豊かな感性や表現力を培い、表現する楽しさや喜びを味わいながら 2 年間の学びを深化させていきます。

「特別研究Ⅰ」（2講座）

『子どもと園芸』

保育施設などで役立つ野菜栽培や草花を育てるなどの園芸活動を体験的に学習します。
本学認定こども園との連携授業も計画しています。

『障害児生活支援演習』

身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした技術を修得します。さらに、手話と点字の基本についても、実践を通して学びます。

「特別研究Ⅱ」

『保育者の音楽遊び』

保育者として必要な歌・踊りなどの音楽表現を体験し、学外実習でも実際に活用できる音楽遊びを実践的に学んでいきます。

7. 履修と免許状・資格の取得

(1) 単位制と履修方法について

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。

② 学習時間は年間を前期(4 月1日～9 月30日)と後期(10月1日～3 月31日)の 2 期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年(通年)30週で完結する「通年科目」があります。

③ 単位の計算方法は「短大設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義、及び演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習、及び実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は 2 時間連続(正味 90 分)を 1 時限としておりますので、各時限を 2 時間として単位の計算をします。

なお、本学宮代キャンパスの授業時間割は次の通りです。

授 業 時 間 割

時限	1	2	3	4	5
時間	8：50～10：20	10：30～12：00	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

④ 授業科目の種類

保育学科に開設されている科目は、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に大別されます。

必修科目

卒業必修科目

保育学科を卒業するために、必ず取得しなければならない科目

資格・免許状取得のための必修科目

保育士資格、幼稚園教諭二種免許状を取得するために、必ず取得しなければならない科目

選択必修科目

卒業選択必修科目

保育**学科**を卒業するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目

(例:「英会話Ⅰ」または「英会話Ⅱ」。「ピアノ演習Ⅰ」または「ギター演習」)

資格取得のための選択必修科目

保育士資格を取得するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目

(例:「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」)

選択科目

選択科目はそれぞれが自由に選択して履修することができる科目です。 ただし、卒業は選択科目であっても、資格・免許状を取得するためには必修科目となっている科目もありますので、授業計画、教育課程表をよくご覧の上、履修するようにしてください。

○ 卒業は選択科目で、幼稚園二種免許状・保育士資格取得には必修科目となっている科目

⇨ 教育心理学、保育・教職実践演習(幼稚園) など

○ 卒業・保育士資格取得には必修科目で、幼稚園二種免許状取得には選択科目となっている科目

⇨ 文章表現Ⅰ、生活教養Ⅱ、乳児保育Ⅰ、保育内容研究 など

(2) 免許状・資格の取得について

保育学科においては、免許状・資格に関する授業科目を履修することによって、次の免許状・資格を取得することができます。取得するためのそれぞれの最低必要単位数は表の通りです。

○ 幼稚園教諭二種免許状　　○ 保育士資格

※ 希望する免許状・資格取得に必要な単位数は100単位程度が適当と思われます。なお、1年間に登録できる履修単位の上限は、概ね55単位までとします。

最低必要単位数			
科目名	卒　業	幼稚園教諭二種	保育士
教養教育科目	19単位	21単位	19単位
専門教育科目	46単位	55単位	65単位
合　計	65単位	76単位	84単位

さらに、保育学科では、社会福祉主事の任用資格に必要な指定科目を設置しています。現在、保育学科の指定科目は、「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「保育原理」、「教育原理」などです。

社会福祉主事とは

社会福祉主事とは社会福祉法に認定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と初めて名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。社会福祉主事任用資格は、大学や短期大学において厚生労働大臣が指定する科目の内3つ以上を履修して卒業した場合にも取得することができます。この指定科目は、時代の変遷とともに科目名の変更を行っています。このため、自らが大学等を卒業した年度において規定されていた指定科目名に基づいて該当するか確認することになります。

(3) 成績評価と単位認定について

① 成績評価は、100点を満点として、**60点以上を合格、60点未満（59点以下）を不合格**とします。
成績は5段階となっており、評価点ごとのグレードは次の通りです。

A+（100～90点）　A（89～80点）　B（79～70点）　C（69～60点）　D（60点未満）

② 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件を備えた者に対して行います。

(1) 通常の授業は、必要な時数として定められた時数の3分の2以上を出席した者

・ 定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。
（遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えるようにしてください）

(2) 学外実習を伴う実習科目（海外における演習・実習科目を含む)については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習において、定められた全ての日数および時数を出席した者

・ 5分の1を超える時数を欠席した場合、及び当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。

(3) 海外実習（演習）を行う場合は、当該実習（演習）における所定の全プログラムに出席した者

・ 体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く） に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、授業担当教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

○ 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・ 注意1回につき1点減点

※ 同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして,必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置がとられます。

○ 遅刻・早退・欠席

・ 遅刻・早退1回につき1点減点

・ 欠席1回につき3点減点

※ 遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書(書式自由)で提出してください。

① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（基本実習、保育実習、教育実習等）

② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合

③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合

④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合

⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合

⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合

⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

○ 欠 格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は,上記,①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

○ 質疑応答

〈指名応答〉

・ 指名した学生が質問に適切に応答したと認められたときは、その内容の評価に応じて1回につき1～2点が加点されます。

・ 質問に不適切な応答をしたとき、または質問に答えられえなかったときは、1回につき1点が減点されます。

〈自発的応答〉

・ 授業担当教員の質問に対して、自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと認められたときは、その内容の評価に応じ1回につき1～3点が加点されます。

・ 学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、授業担当教員の質問に対し、学生が自発的応答を1回もしなかったときは、5点が減点されます。

○ **小論文（課題）**

・ 未提出の小論文１件につき２点が減点されます。

・ 授業担当教員が小論文を優良と評価したときは、小論文１件につき内容の優良さに応じて１～３点が加点されます。

○ **小テスト**

授業の理解度を計る小テストについて、授業担当教員が優良と認めた場合は、小テスト１件につき評価により１～３点が加点されます。

○ **期末試験としてのレポート提出を課す場合**

・ レポートは原則として試験期間開始前に提出します。

・ 授業担当教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は、期限後１日(土曜、日曜、祝日を含む)あたり、２点減点とします。

・ 提出がない場合のレポート評価は零点です。

・ 授業担当教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点されます。
また、字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様です。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第２条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

○ コート類、小物類（マフラー・帽子等）着用の教室入室、及び受講

○ 授業の進行を妨げるような私語

○ 携帯電話等の送信や交信

○ 飲食や喫煙行為

○ 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り

○ 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと

○ 授業中の教室への無断入退室

8. 教育実習・保育実習

（1）教育実習

教育実習は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。履修方法は基本実習、本実習、及び実習に関する事前・事後指導（1単位）があり、単位数は5単位です。

基本実習は福島学院大学認定こども園（幼保連携型）、もしくは学外の幼稚園・認定こども園等での実習が1週間（1単位）、本実習は、学外の幼稚園・認定こども園等での教育実習が3週間（3単位）です。

教育実習をまとめると、表1のようになります。

表1 「教育実習」実習日数・単位

実習施設		実習日数	単位数	備　考
基本実習	本学認定こども園（幼保連携型） もしくは 学外の幼稚園、または認定こども園 (幼保連携型・幼稚園型)	1週間	1単位	幼稚園教諭二種免許状取得希望者は必修
本実習	学外の幼稚園、または認定こども園 (幼保連携型・幼稚園型)	3週間	3単位	

＊ 実習に関する事前・事後指導（1単位）は、オリエンテーションやクラスセミナーでの実習指導、実習授業、実習報告会等で行います。

教育実習の目標

1. 幼稚園や認定こども園についてその実態を知り理解を深める。
2. 幼稚園教諭の職務や役割を体験的に理解し、責任感を喚起する。
3. 指導計画の役割について実際の保育に即して理解する。
4. 指導・援助について実践的に学ぶと共に、専門職の幼児教育に対する姿勢や考え方に触れる。
5. 幼稚園教諭としての適切な勤務態度を身につける。
6. 子どもの発達を現実に即して理解し、幼稚園教諭が担う役割について考える。
7. 幼稚園教諭に求められる適性や態度、能力等について実感を持って考え、自己を見直す。

〈基本実習の指導内容〉 ※「保育実習」の基本実習も兼ねている。

1. 保育者としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。

○ 実習の心構え（保育者の心構え）　○ 幼児教育の考え方
○ 保育者の望ましい資質　○ 実習の反省と適性への自己評価

2. 実習日誌について学ぶ。

○ 実習日誌の書き方　○ 環境構成の仕方

3. 観察実習・技術演習等を通じて、指導法の基礎を体験的に理解する。

○ 幼児の行動観察からの読み取り　○ 自由遊びにおける指導法
○ 基本的生活習慣の指導　○ 教材研究と教材教具の準備の仕方
○ 一人ひとりの子どもに応じたかかわり方
※ 実際に保育者と幼児のかかわりを通して幼児理解を深める。

4. 幼児教育の実際についての体験的・総合的理解と、適切な勤務態度を身につける。

○ 施設・設備とその活用　○ 園の1日・1年の生活　○ 保育者の職務内容
○ 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、清掃と整理整頓の仕方等）

〈教育実習の指導内容〉

1. 幼稚園教諭としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。

○ 実習の心構え（幼稚園教諭の役割）　○ 幼児教育について
○ 幼稚園教諭の望ましい資質　○ 実習の反省と自己評価

2. 参加、部分実習、全日実習等における、指導計画を作成し実践する。

○ 日案や部分的な指導案の作成の方法　○ 実践結果の反省・評価の方法
○ 反省・評価に基づく事後評価

3. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、様々な指導方法を体験し、理解する。

○ 指導計画に基づいた保育の実践　○ 幼児の個々に応じた指導法
○ 環境構成への理解　○ 生活指導への理解

4. 幼児理解の方法について体験し、実践に生かす。

○ 観察と記録の取り方　○ 実習日誌の記録とその活用
○ 個々に応じた対応の仕方　○ 幼児の発達に応じた指導計画や指導法

5. 幼児教育の実際についての体験的、総合的に理解をする。

○ 施設・設備とその活用　○ 実習施設の教育計画
○ 保護者や地域との連携　○ 幼稚園教諭の職務内容
○ 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、職場内の人間関係等）

表2 『教育実習』での標準的な指導計画

	実　習　内　容
事前（学外）	**○実習施設を訪問し、事前打ち合わせを行う。** **○オリエンテーション** ・ 出勤・退勤時間の確認、服装（出退勤時や保育中）、その他勤務上の注意点等、施設内外の見学、設立の沿革、教育目標、年齢・園児数・クラス編成等、職員組織・構成、教育実習の心得他 ・ 教育課程、実習期間中の月案および行事、週案等、ディリープログラム、部分実習や全日実習について、季節の歌などの課題曲の選定や楽譜等について
第1週	**○指導講話（園長・実習担当者等）** ・ 打ち合わせ：週および本日の流れ、ねらい、保育内容他（実習担当者） ・ 観察・参加実習：保育室の環境構成、幼児との関わりや援助活動、保育補助 明日の教材・教具の準備、保育室の清掃や遊戯室および園庭の清掃 ・ 打ち合わせ：反省・考察、明日の保育について ＊第3週まで継続
第2週	**○部分実習（30 分程度）についての指導を受ける。（回数に応じ指導案を提出する）** ・ 第1回部分実習の実施 ・第1回部分実習についての反省会 **○全日実習について指導を受ける。**
第3週	**○部分実習、全日実習の実施** ・ 第 2 回部分実習の実施 ・第 2 回部分実習についての反省会 ・全日実習の実施 ・ 全日実習についての反省会（保育の振り返り、課題の明確化他） **○反省会（園長、主任、実習担当および担任等）との話し合い、実習のまとめ**
事後	**○実習のまとめをする（振り返り）**

（2）保育実習

［保育実習Ⅰ］

保育実習Ⅰは保育士資格取得のための必修科目です。保育実習指導Ⅰ(2単位)の他、保育所における実習2単位と、その他表3（A）に掲げる保育所以外の施設における実習2単位を履修します。

保育実習Ⅰの実施基準は以下の通りです。

表3 『保育実習Ⅰ』実施基準（その1）

実習種別	履 修 方 法		実習施設
	単位数	おおむねの実習日数	
保育実習Ⅰ	4単位	20日	（A）

※実習施設の種別は、次の通りです。

（A） 保育所、幼保連携型認定こども園又は**児童**福祉法第6条の3第10項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」(平成26年厚生労働省令第61号）第3章第2節に規定する小規模保育事業A型及び同基準同章第3節に規定する小規模保育B型に限る)若しくは同条第12項の事業所内保育事業であって同法第34条の15第1項の事業及び同法同条第2項の認可を受けたもの（以下「小規模保育A･B型及び事業所内保育事業」という。)及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る）、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

以上の実施基準を別表にまとめると次のようになります。

表4 『保育実習Ⅰ』実施基準（その2）

実習種別	保 育 実 習 Ⅰ		
	保育士資格取得希望者は必修		
実習施設 実習日数 単位数	保 育 所	おおむね10日間	2単位
	保育所を除く表3(A)欄に掲げる施設	おおむね10日間	2単位

表3、表4に示されているのが現行の実施基準です。本学ではこの基準を踏まえて、より実習の効果をあげることを目的として、独自の方法で実施しています。

保育実習Ⅰの履修方法は、学外実習と学内での保育実習指導Ⅰがあります。

学外実習に先立ち、児童福祉施設見学実習を1日間実施します。さらに、保育所実習を予定している実習先でのボランティア活動を1日間実施します。＊コロナ禍で実施できない場合は、別途説明します。

また、実習の基礎を学ぶために福島学院大学認定こども園（幼保連携型）等での基本実習を1週間実施いたします。

その後、学外実習は、児童福祉施設実習と保育所実習をおおむね10日間ずつ行います。

実習の実施内容は表5の通りです。学内での実習に関する事前・事後指導は、教育実習同様、オリエンテーション、クラスセミナーでの実習指導、実習授業、実習報告会等で行います。

表5 「保育実習Ⅰ」実施時期

実 習 施 設	学年	実施時期	実習日数	備　　考
児童福祉施設	1	9月	1 日	見学実習
保育所 認定こども園 (幼保連携型・保育所型)	1	7月下旬～ 9月	1 日(8 時間)、または 半日間(4 時間)を 2 回	ボランティア活動 を実施
児童福祉施設(保育所を除く)	2	5月	おおむね 10 日間	児童福祉施設実習
保育所 認定こども園 (幼保連携型・保育所型)	2	7月下旬～ 8 月	おおむね 10 日間	保育所実習

保育実習の目標 （保育所・児童福祉施設）

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

［保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ］

保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、保育士資格取得の選択必修科目です。したがって、資格を取得するためには、保育実習Ⅰの他にどちらかを選択し、履修しなければなりません。 詳細は下記の通りです。

なお、保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ(各 1 単位)もどちらかを履修します。授業内容は授業計画をご覧ください。

表6 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」実施基準・時期

実習種別	実習施設	単位数	実習日数	実習時期	備　考
保育実習Ⅱ	（B）	2単位	おおむね 10 日間	8～9月、または 10 月～12 月	どちらか1科目を 履修する
保育実習Ⅲ	（C）	2単位	おおむね 10 日間	8 月、または 10 月～12 月	

（B） 保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A･B型及び事業所内保育事業

（C） 児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所及び幼保連携型認定こども園並びに小規模保育A･B型及び事業所内保育事業は除く。）

備考

1. 保育実習Ⅰ(必修科目)4単位の履修方法は、保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A･B型及び事業所内保育事業における実習2単位及び(A)に掲げる保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A･B型及び事業所内保育事業以外の施設における実習2単位とする。
2. 児童福祉法(昭和22年法律第164号。以下「法」という。)第6条の3第9項に規定する家庭的保育事業又は、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」第3章、第4節に規定する小規模保育事業C型において、家庭的保育者又は補助者として、20日以上従事している又は過去に従事していたことのある場合にあっては、当該事業に従事している又は過去に従事していたことをもって、保育実習Ⅰ(必修科目)のうち保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A･B型及び事業所内保育事業における実習2単位、保育実習Ⅱ(選択必修科目)及び保育実習指導Ⅱ(選択必修科目)を履修したものとすることができる。

保育実習Ⅱの目標（保育所）

1．　保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2．　子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める
3．　既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4．　保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。
5．　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6．　保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習Ⅲの目標（児童福祉施設）

1．　児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2．　家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、
　　保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3．　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4．　保育士としての自己の課題を明確化する。

（3） ボランティア活動について

保育学科では全学生を対象に、教育・保育実践の一環として、福島学院大学認定こども園、教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、施設等）、地域での教育・保育に関するイベント・研修会などでのボランティア活動を奨励しています。

2 年生になると、各種学外実習を計画しているので、ボランティア活動の時間がなかなか取れません。1 年生の皆さんは、次年度以降の学外実習に向けて、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献できる保育者となれるようにボランティア活動へ積極的に参加しましょう。

ボランティア活動の手続きは、大学でボランティア活動にかかる保険に加入していますので、事前に実習指導室へ「ボランティア活動届」を提出してから実施します。終了後には報告書も提出します。

詳細はクラスセミナーで説明します。

＊ ボランティア活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、自粛や中止となる場合があります。

（4） 実習報告会について

保育学科では、「教育実習」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」の履修者全員を対象に、実習事前・事後指導の一環として、全学外実習終了後に「実習報告会」を開催しています。

実習報告会の趣旨は以下の通りです。

○ 実習を終えた履修生は、事後学習として、実習の反省など、実習で学んだことを振り返り、保育者としての自覚を一層深めることを目的とします。

○ **これから**実習を予定している履修生には、事前学習として、実習に対する理解と今後の学外実習へ向けての意欲高揚を図ることを目的で実施します。

なお、この実習報告会は、教育実習・保育実習等の授業回数に含められます。単位取得に関わる授業なので、必ず出席しなければなりません。

（5） 実習の履修制限と解除

教育実習・保育実習等については、次の要件のいずれかに該当する者は、学科会議において審議の結果、不適格と判断された場合は、実習を制限される場合があります。

※ 詳細については、「短期大学部履修規程」第17条（実習の履修制限）をご覧ください。

1. 教育実習、保育実習Ⅰ

イ 実習を行う時点で、1年次に履修した卒業、資格・免許状取得に必要な単位を取得していない者

ロ 基本実習が不合格の者(教育実習のみ)

ハ 事前事後指導において5分の4以上出席していない者

ニ 実習を完遂するのに支障があると判断された者

2. 保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ

イ 保育実習Ⅰにおける保育所実習もしくは児童福祉施設実習が不合格の者

ロ 保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲにおいて5分の4以上出席していない者

ハ 実習を完遂するのに支障があると判断された者

ただし、履修制限にかかった場合でも、本人の努力次第で解除される場合もありますので、同規程の第18条（履修制限の解除）も併せてご覧ください。

また、実習が不合格だった場合、再実習も可能ですが、再実習の制限も同規程の第19条（同年度内の再実習制限）に規定されていますので、該当となった場合は確認してください。

9. 国内研修旅行・クラスセミナー

保育学科の社会に対する使命は、質の高い保育者を社会に送り出すことです。地域社会に貢献できる優れた保育者は、学問、知識、技術だけの教育では十分とは言えません。社会人になるために必要な知識の修得、研修の機会も当然重要になります。

そこで、保育学科では通常の授業科目の他に、さまざまな経験や学習をする機会として国内研修旅行、クラスセミナー等を設定しています。

（1） 国内研修旅行

国内研修旅行は、近い将来、保育者を志す学生の皆さんが社会参加に必要な知識を、体験を通して修得するための機会として設定しています。これは教育課程による通常の授業を重視しながらも、これと有機的関連を持つよう厳選したものを研修内容として計画しています。

具体的には、保育施設や文化施設などの見学を実施します。学生の皆さんは、この機会を積極的に活用し社会的見聞を広めるようにしましょう。

（2） クラスセミナー

保育学科では、学年ごとにクラスセミナーを実施しています。その内容は、就職・ 学内進学に関する説明会や相談会、実習に関する事前・事後指導（授業）、学力向上を目指す講座、さらに、現代社会に対応していくための生活指導などを実施します。

また、学科行事や大学行事等のイベント開催に関わる連絡など、学生の皆さんにとって直接的に関わる重要な内容が数多く計画されますので、必ず出席してください。

10.　学生支援プログラム

保育学科では、授業とは別に、次のような学生支援プログラムを計画し、希望者を対象に実施しています。詳細については、クラスセミナー等でご案内いたします。

○ クラスアドバイザー（クラス担当教員）による「個人面談」（前期・後期）の実施
○ 「学生・ご家族個別面談会」の開催
○ 「幼児教育・保育英語検定」（幼保英検）の特別指導
○ 実習支援室の設置（実習への相談・支援）
○ 教員のオフィスアワー設定（学業、学生生活等の相談・支援）
○ 本学福祉学部編入学の進学支援

11. 保育学科のキャリア支援

就職を希望する学生が第一志望に就職できるように、以下のような就職指導・支援を行っています。

宮代キャンパス内には、学生支援・キャリア支援課（ハウスグリンデルワルト1階）、 及びキャリア支援資料室(しらゆり館1階）がありますので、積極的に利用してください。

また、すみれ館 1 階にも、こども学科・保育学科キャリア支援相談室がり、福島県・東北地区の専門職（保育士・幼稚園教諭・保育教諭等）の求人票や公務員試験対策講座の資料を自由に閲覧することができます。

就職支援内容

1. 学生との個別就職相談
　保育学科のキャリア支援担当教員が中心となって、日常の就職指導と支援を実施。
2. 就職個人面談
　卒業年次生については、教員 1 人あたり学生 20 名程度を担当して、きめ細やかな指導を実施。
3. クラスセミナーの就職ガイダンス等の計画・実施　＊学生支援・キャリア支援課と連携して実施。
4. 学生・ご家族との個別面談会（7 月）
5. 就職個別面談会（10 月）
6. 各種就職説明会への協力（7～11月）
7. 就職模擬面接・就職指導講座
　学生から模擬面接、小論文の添削、ピアノ実技試験指導の希望があった場合には随時対応。
8. 公務員試験対策講座
　受講を希望する学生を対象として週1回程度、専門性を持った教員が試験科目の講義を実施、エントリーシートの書き方等も指導。
9. 就職未内定者への特別指導
　卒業年度の1月までに就職内定が得られない学生については、特別に面談の機会を設け支援。
10. 就職説明会、セミナー等のポスターの掲示

◇ その他

・就職適性検査、就職模擬試験・作文模擬試験の実施
・公務員、保育士模擬試験等の実施

令和4(２０２２)年度　保育学科　教育課程

2021. 12. 16

授業科目（区分）	授業科目（分野）	授業科目	講義・演習実習の別	授業回数	履修年次及び単位数 1年	履修年次及び単位数 2年	卒業 必修	卒業 選択	幼稚園教諭二種 必修	幼稚園教諭二種 選択	保育士 必修	保育士 選択	備考
教養教育科目 一般教育科目 教養科目	教育方針	初年次教育	講義	8	1		1			1	1		
	表現力向上分野	文章表現Ⅰ	講義及び演習	15	2		2			2	2		
		文章表現Ⅱ	講義及び演習	15	2		2			2	2		
		書写演習	演習	15	2			2		2		2	
		会話演習	演習	15	2		2			2	2		
	情報教育分野	情報機器操作	演習	15	2		2		2		2		
		データサイエンス	講義及び演習	15	2		2				2		
	現代教養分野	生活教養Ⅰ	講義及び演習	15	2		2			2	2		
		生活教養Ⅱ	講義及び演習	15	2		2			2	2		
		音楽演習	演習	15		2		2		2		2	
		美術演習	演習	15		2		2		2		2	
		文学演習	演習	15		2		2		2		2	
		日本国憲法	講義	15	2			2	2			2	
		教養演習Ⅰ	演習	15	2			2		2		2	
		教養演習Ⅱ	演習	15		2		2		2		2	
	国際理解分野	英会話Ⅰ	演習	15	2		2 ②	2	2 ②	2	2 ②	2	ベーシックレベル　②いずれか2単位必修
		英会話Ⅱ	演習	15	2			2		2		2	アドバンスレベル
		国際理解演習	演習	15	2	2		2		2		2	
	体育分野	体育講義	講義	8	1		1		1		1		
		体育実技	実技	20	1		1		1		1		
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目 イ　Ⓐ保育の本質・目的に関する科目	教育原理	講義	15	2		2		2		2		
		保育原理	講義	15	2		2		2		2		
	ロ	保育者論	講義	15	2		2		2		2		
	ハ	◇教育行政	講義	15		2		2	2			2	
		社会福祉	講義	15	2		2			2	2		
		子ども家庭支援論	講義	15		2		2		2	2		
		子ども家庭福祉	講義	15	2		2			2	2		
		社会的養護Ⅰ	講義	15	2			2		2	2		
	ニ　Ⓑ保育の対象の理解に関する科目	◇教育心理学	演習	15		1		1	1			1	
		発達心理学	講義	15	2		2		2		2		
		子ども家庭支援の心理学	講義	15		2		2		2	2		
		◇臨床心理学Ⅰ	講義	15		2		2		2		2	
		◇臨床心理学Ⅱ	講義	15		2		2		2		2	
	ホ	◇特別支援教育	講義	15		2		2	2			2	
		子どもの保健	講義	15	2		2			2	2		
		子どもの食と栄養	演習	15		2		2		2	2		
	ヘ	保育・教育課程論	講義	15		2		2	2		2		
	領域及び保育内容の指導法に関する科目 イ　Ⓒ保育の内容・方法に関する科目	幼児と健康	演習	15	1		4 ③	1	1		1		③この内より4単位必修
		幼児と人間関係	演習	15	1			1	1		1		
		幼児と環境	演習	15	1			1	1		1		
		幼児と言葉	演習	15	1			1	1		1		
		幼児と表現（造形）	演習	15	1			1	1		1		
		幼児と表現（音楽）	演習	15	1			1	1		1		
	ロ	保育内容総論	演習	15	1		4 ④	1	1		1		④この内より4単位必修
		保育内容指導法 健康	演習	15		1		1	1		1		
		保育内容指導法 人間関係	演習	15		1		1	1		1		
		保育内容指導法 環境	演習	15		1		1	1		1		
		保育内容指導法 言葉	演習	15		1		1	1		1		
		保育内容指導法 表現	演習	15		1		1	1		1		
		乳児保育Ⅰ	講義	15	2		2			2	2		
		乳児保育Ⅱ	演習	15		1		1		1	1		
		子どもの健康と安全	演習	15		1	1			1	1		
		障害児保育	演習	15	2		2			2	2		
		社会的養護Ⅱ	演習	15		1		1		1	1		
		子育て支援	演習	15		1		1		1	1		
	道徳、総合的な学修の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等 イ　Ⓒ	◇教育方法及び技術	演習	15		2		2	2			2	
	ロ　Ⓑ	幼児理解の理論及び方法	演習	15	2			2	2		2		
	ハ　Ⓒ	◇教育相談の理論及び方法	演習	15		2		2	2			2	
	教育実践に関する科目 イ	教育実習	実習	時間割外	5			5	5			5	事前・事後指導1単位を含む
	ロ　総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	15		2		2	2		2		
	保育実習	保育実習指導Ⅰ	演習	15	2			2		2	2		
		保育実習Ⅰ	実習	時間割外		4		4		4	4		
		◆保育実習指導Ⅱ	演習	8		1		1		1	3 ⑤	1	⑤、⑥いずれか3単位保育士必修
		保育実習Ⅱ	実習	時間割外		2		2		2		2	
		◆保育実習指導Ⅲ	演習	8		1		1		1	3 ⑥	1	
		保育実習Ⅲ	実習	時間割外		2		2		2		2	
	本学独自の科目　Ⓒ	◇ピアノ演習Ⅰ	演習	30	2		2 ⑦	2		2	2 ⑦	2	⑦いずれか2単位必修
		◇ギター演習	演習	30	2			2		2		2	
		ピアノ演習Ⅱ	演習	30		2		2		2		2	
		保育内容研究	演習	15		2	2			2	2		
		特別研究Ⅰ	演習	15	2			2		2		2	
		特別研究Ⅱ	演習	15	2			2		2		2	

最低必要単位数

科目名等		卒業（卒必）	卒業	幼稚園教諭二種（卒必）	幼稚園教諭二種（幼必）	幼稚園教諭二種	保育士（卒・保必）	保育士
教養教育科目	教育方針	1単位	19単位 ［卒必：19単位］	1単位	—	21単位 ［卒必：13単位＋幼必：8単位］	1単位	19単位 ［卒・保必：19単位］
	表現力向上分野	6単位		6単位	—		6単位	
	情報教育分野	4単位		（4単位）	2単位		4単位	
	現代教養分野	4単位		4単位	2単位		4単位	
	国際理解分野	2単位		（2単位）	2単位		2単位	
	体育分野	2単位		（2単位）	2単位		2単位	
専門教育科目		46単位 ［卒必：31単位＋選択：15単位］		55単位 ［卒必：15単位＋幼必：40単位］			65単位 ［卒・保必：56単位＋◇印：6単位＋◆印：3単位］	
合計		65単位		76単位			84単位	

㊟ ◇◆印：保育士資格取得のための選択必修科目

「保育学科」カリキュラムツリー(授業科目のナンバリングを含む) 【令和４(2022)年度 入学生用】

2021.12.16現在

学年	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期
教養教育科目	初年次教育(2N-N-100R)			
	文章表現Ⅰ(2N-N-101R) →	文章表現Ⅱ(2N-N-102R)		
		書写演習(2N-103)		
	会話演習(2N-N-104R)			
	情報機器操作(2N-NK-105C) →	データサイエンス(2N-NK-106C)		
	生活教養Ⅰ(2N-N-107R) →	生活教養Ⅱ(2N-N-108R)	音楽演習(2N-200)	
	日本国憲法(2N-K-109)		美術演習(2N-201)	
	英会話Ⅰ(2N-NK-110C)		文学演習(2N-202)	
	英会話Ⅱ(2N-NK-111C)			
	体育講義(2N-NK-112R)			
	体育実技(2N-NK-113R)			
		教養演習Ⅰ(2N-114)	教養演習Ⅱ(2N-203)	
	国際理解演習(2N-115)		国際理解演習(2N-115)	
専門教育科目	教育原理(2N-NK-150R)			教育行政(2N-K-250)
	保育原理(2N-NK-151R)	保育者論(2N-NK-152R)		
	社会福祉(2N-N-153R)	子ども家庭福祉(2N-N-154R)	子ども家庭支援論(2N-N-251)	子育て支援(2N-N-252)
		社会的養護Ⅰ(2N-N-155) →		社会的養護Ⅱ(2N-N-253)
	発達心理学(2N-NK-156R)	幼児理解の理論及び方法(2N-NK-157)	教育心理学(2N-K-254)	子ども家庭支援の心理学(2N-N-255)
			臨床心理学Ⅰ(2N-256) →	臨床心理学Ⅱ(2N-257)
	子どもの保健(2N-N-158R)			子どもの食と栄養(2N-N-258)
			保育・教育課程論(2N-NK-259)	
	保育内容総論(2N-NK-159C)			
		幼児と健康(2N-NK-160C) →	保育内容指導法　健康(2N-NK-260C)	
		幼児と人間関係(2N-NK-161C) →	保育内容指導法　人間関係(2N-NK-261C)	
		幼児と環境(2N-NK-162C) →	保育内容指導法　環境(2N-NK-262C)	
		幼児と言葉(2N-NK-163C) →	保育内容指導法　言葉(2N-NK-263C)	
	幼児と表現(造形)(2N-NK-164C)		保育内容指導法　表現(2N-NK-264C)	
	幼児と表現(音楽)(2N-NK-165C)			
		乳児保育Ⅰ(2N-N-166R) →		乳児保育Ⅱ(2N-N-265)
			子どもの健康と安全(2N-N-266R)	
		障害児保育(2N-N-167R)		特別支援教育(2N-K-267)
			教育方法及び技術(2N-K-268)	教育相談の理論及び方法(2N-K-269)
				保育・教職実践演習(幼稚園)(2N-NK-270)
				保育内容研究(2N-N-271R)
	ピアノ演習Ⅰ(2N-N-168C) →		ピアノ演習Ⅱ(2N-272)	
	ギター演習(2N-N-169C)			
		特別研究Ⅰ(2N-170)		
		特別研究Ⅱ(2N-171)		
教育・保育実習等	教育実習(1～2年継続科目)(2N-K-172)			
	保育実習指導Ⅰ(1～2年継続科目)(2N-N-173)			
			保育実習Ⅰ(2N-N-273)	
			保育実習指導Ⅱ(2N-N-274)	
			保育実習Ⅱ(2N-N-275)	
			保育実習指導Ⅲ(2N-N-276)	
			保育実習Ⅲ(2N-N-277)	

学位授与方針（DP）

DP1. 総合力
保育・幼児教育を学ぶ者として、人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力

DP2. 問題発見・解決力
子どもの成長とそれを取り巻く現代社会に関心を持ち、保育・幼児教育や乳幼児の発達に関する課題を見いだし、解決に取り組むこと

DP3. 構想・構築力
近年の子どもと子どもに関する社会等の新たな問題とその背景を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案を行い、論理的に説明する力

DP4. コミュニケーション力
学びによる能力や素養を活かすために、子ども、保育者、保護者、地域の方々といった子どもの成長に関わる他者との相互理解を実現する力

DP5. 実践力
保育・幼児教育に関する専門性を実践するために必要な知識・能力・技能

＊記号・数値等の説明

保育士資格必修科目	幼稚園教諭二種免許状必修科目	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状　必修科目	選択科目

2N　：　保育学科コード　　N　：　保育士資格必修科目　　K　：　幼稚園教諭二種免許状必修科目

R　：　卒業必修科目　　C　：　卒業選択必修科目

発展科目 →　　関連科目 →

㊟ 所属するクラスにより、開講期（前期・後期）が変更になる場合があります。

「保育学科履修細則」

（目的）

第1条　本細則は短期大学部学則第38条、39条に基づき、保育学科の幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる指定科目の履修について定めることを目的とします。

（幼稚園教諭二種免許状取得）

第2条　幼稚園教諭二種免許状取得を希望する者は、別表1に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

（保育士資格取得）

第3条　保育士資格取得を希望する者は、別表2に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得）

第4条　幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方の取得を希望する者は、別表3に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

なお、幼保連携型認定こども園の保育教諭として従事する場合は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を併有する必要があります。

附則

1．この細則は令和4年4月1日から施行します。

2．この細則は保育学科の所管とします。

別表Ⅰ 幼稚園教諭二種免許状取得 科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	備　考
			必修	選択		
教養教育科目	情報機器操作	1年	2		演習	
	日本国憲法	1年	2		講義	
	英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	1年	2	2	演習	レベルに応じいずれか2単位必修
	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	1年		2	演習	
	体育講義	1年	1		講義	
	体育実技	1年	1		実技	
専門教育科目	教育原理	1年	2		講義	
	保育原理	1年	2		講義	
	保育者論	1年	2		講義	
	教育行政	2年	2		講義	
	教育心理学	2年	1		演習	
	発達心理学	1年	2		講義	
	特別支援教育	2年	2		講義	
	保育・教育課程論	2年	2		講義	
	幼児と健康	1年	1		演習	
	幼児と人間関係	1年	1		演習	
	幼児と環境	1年	1		演習	
	幼児と言葉	1年	1		演習	
	幼児と表現(造形)	1年	1		演習	
	幼児と表現(音楽)	1年	1		演習	
	保育内容総論	1年	1		演習	
	保育内容指導法　健康	2年	1		演習	
	保育内容指導法　人間関係	2年	1		演習	
	保育内容指導法　環境	2年	1		演習	
	保育内容指導法　言葉	2年	1		演習	
	保育内容指導法　表現	2年	1		演習	
	教育方法及び技術	2年	2		演習	
	幼児理解の理論及び方法	1年	2		演習	
	教育相談の理論及び方法	2年	2		演習	
	教育実習	1・2年	5		実習	事前・事後指導1単位を含む
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2年	2		演習	

別表2 保育士資格取得 科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	備　考
			必修	選択		
教養教育科目	初年次教育	1年	1		講義	
	文章表現Ⅰ	1年	2		講義 演習	
	文章表現Ⅱ	1年	2		講義 演習	
	会話演習	1年	2		演習	
	情報機器操作	1年	2		演習	
	データサイエンス	1年	2		講義 演習	
	生活教養Ⅰ	1年	2		講義 演習	
	生活教養Ⅱ	1年	2		講義 演習	
	英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	1年	2	2	演習	レベルに応じいずれか２単位必修
	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	1年		2	演習	
	体育講義	1年	1		講義	
	体育実技	1年	1		実技	
専門教育科目	教育原理	1年	2		講義	
	保育原理	1年	2		講義	
	保育者論	1年	2		講義	
	社会福祉	1年	2		講義	
	子ども家庭支援論	2年	2		講義	
	子ども家庭福祉	1年	2		講義	
	社会的養護Ⅰ	1年	2		講義	
	発達心理学	1年	2		講義	
	子ども家庭支援の心理学	2年	2		講義	
	子どもの保健	1年	2		講義	
	子どもの食と栄養	2年	2		演習	
	保育・教育課程論	2年	2		講義	
	幼児と健康	1年	1		演習	
	幼児と人間関係	1年	1		演習	
	幼児と環境	1年	1		演習	
	幼児と言葉	1年	1		演習	
	幼児と表現(造形)	1年	1		演習	
	幼児と表現(音楽)	1年	1		演習	

専門教育科目	保育内容総論	1年	1		演習	
	保育内容指導法　健康	2年	1		演習	
	保育内容指導法　人間関係	2年	1		演習	
	保育内容指導法　環境	2年	1		演習	
	保育内容指導法　言葉	2年	1		演習	
	保育内容指導法　表現	2年	1		演習	
	乳児保育Ⅰ	1年	2		講義	
	乳児保育Ⅱ	2年	1		演習	
	子どもの健康と安全	2年	1		演習	
	障害児保育	1年	2		演習	
	社会的養護Ⅱ	2年	1		演習	
	子育て支援	2年	1		演習	
	幼児理解の理論及び方法	1年	2		演習	
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2年	2		演習	
	保育実習指導Ⅰ	1・2年	2		演習	
	保育実習Ⅰ	2年	4		実習	
	保育実習指導Ⅱ	2年	3	1	演習	いずれか３単位必修
	保育実習Ⅱ	2年		2	実習	
	保育実習指導Ⅲ	2年	3	1	演習	
	保育実習Ⅲ	2年		2	実習	
	教育行政	2年	6	2	講義	この中から６単位以上必修
	教育心理学	2年		1	演習	
	臨床心理学Ⅰ	2年		2	講義	
	臨床心理学Ⅱ	2年		2	講義	
	特別支援教育	2年		2	講義	
	教育方法及び技術	2年		2	演習	
	教育相談の理論及び方法	2年		2	演習	
	ピアノ演習Ⅰ	1年		2	演習	いずれか２単位必修
	ギター演習	1年		2	演習	
	ピアノ演習Ⅱ	2年		2	演習	
	保育内容研究	2年	2		演習	
	特別研究Ⅰ	1年		2	演習	

別表3 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得 科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	備　考
			必修	選択		
教養教育科目	初年次教育	1年	1		講義	
	文章表現Ⅰ	1年	2		講義 演習	
	文章表現Ⅱ	1年	2		講義 演習	
	会話演習	1年	2		演習	
	情報機器操作	1年	2		演習	
	データサイエンス	1年	2		講義 演習	
	生活教養Ⅰ	1年	2		講義 演習	
	生活教養Ⅱ	1年	2		講義 演習	
	日本国憲法	1年	2		講義	
	英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	1年	2	2	演習	レベルに応じいずれか２単位必修
	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	1年		2	演習	
	体育講義	1年	1		講義	
	体育実技	1年	1		実技	
専門教育科目	教育原理	1年	2		講義	
	保育原理	1年	2		講義	
	保育者論	1年	2		講義	
	教育行政	2年	2		講義	
	社会福祉	1年	2		講義	
	子ども家庭支援論	2年	2		講義	
	子ども家庭福祉	1年	2		講義	
	社会的養護Ⅰ	1年	2		講義	
	教育心理学	2年	1		演習	
	発達心理学	1年	2		講義	
	子ども家庭支援の心理学	2年	2		講義	
	臨床心理学Ⅰ	2年		2	講義	
	臨床心理学Ⅱ	2年		2	講義	
	特別支援教育	2年	2		講義	
	子どもの保健	1年	2		講義	
	子どもの食と栄養	2年	2		演習	
	保育・教育課程論	2年	2		講義	
	幼児と健康	1年	1		演習	
	幼児と人間関係	1年	1		演習	

専門教育科目	幼児と環境	1年	1		演習	
	幼児と言葉	1年	1		演習	
	幼児と表現(造形)	1年	1		演習	
	幼児と表現(音楽)	1年	1		演習	
	保育内容総論	1年	1		演習	
	保育内容指導法　健康	2年	1		演習	
	保育内容指導法　人間関係	2年	1		演習	
	保育内容指導法　環境	2年	1		演習	
	保育内容指導法　言葉	2年	1		演習	
	保育内容指導法　表現	2年	1		演習	
	乳児保育Ⅰ	1年	2		講義	
	乳児保育Ⅱ	2年	1		演習	
	子どもの健康と安全	2年	1		演習	
	障害児保育	1年	2		演習	
	社会的養護Ⅱ	2年	1		演習	
	子育て支援	2年	1		演習	
	教育方法及び技術	2年	2		演習	
	幼児理解の理論及び方法	1年	2		演習	
	教育相談の理論及び方法	2年	2		演習	
	教育実習	1・2年	5		実習	事前・事後指導1単位を含む
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2年	2		演習	
	保育実習指導Ⅰ	1・2年	2		演習	
	保育実習Ⅰ	2年	4		実習	
	保育実習指導Ⅱ	2年	3	1	演習	いずれか３単位保育士必修
	保育実習Ⅱ	2年		2	実習	
	保育実習指導Ⅲ	2年	3	1	演習	
	保育実習Ⅲ	2年		2	実習	
	ピアノ演習Ⅰ	1年		2	演習	いずれか２単位必修
	ギター演習	1年		2	演習	
	ピアノ演習Ⅱ	2年		2	演習	
	保育内容研究	2年	2		演習	
	特別研究Ⅰ	1年		2	演習	